

公開実用 昭和64- 50541

引札  
Citation 9

②日本国特許庁 (JP)

①実用新案出願公開

③公開実用新案公報 (U)

昭64- 50541

④Int.Cl.

E 04 F 13/14  
13/08

識別記号

102

府内整理番号

E - 7023-2E  
L - 7023-2E

⑤公開 昭和64年(1989)3月29日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑥考案の名称 建築用板

⑦実 願 昭62-146640

⑧出 願 昭62(1987)9月26日

⑨考案者 吉田 朋秀 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

⑩出願人 松下電工株式会社 大阪府門真市大字門真1048番地

⑪代理人 弁理士 石田 長七

## 明細書

### 1. 考案の名称

建築用板

### 2. 実用新案登録請求の範囲

[1] 工業系材にて形成された板材の少なくとも上部に水平方向に連続した固着部を形成し、この固着部の表面に固着具打ち込み場所指定用の切欠を設け、この切欠に対応するよう固着部の内部に固着具誘導用の空洞部を設けて成る建築用板。

[2] 空洞部の径を固着具の径と略同径として成る実用新案登録請求の範囲第1項記載の建築用板。

### 3. 考案の詳細な説明

#### [技術分野]

本考案は壁体の外面に張られる建築用板の構造に関するものであって、詳しくは建築用板に設けた切欠と空洞部とを介して固着具により建築用板を壁体の外面や内面に張る場合の建築用板の取付構造に関するものである。

#### [背景技術]

従来、板材1'を壁体6'に取付ける場合、作業者の姿勢や取付場所の不具合、取付工具の違い等によって、固着具5'の壁体6'への打ち込み角度が第7図に示すように他方へずれてしまうことがある、このため固着具5'を壁体6'へ打ち込みにくく施工を行いにくかった。また固着具5'を斜めに打ち込んで板材1'を壁体6'に取付けた場合には、固着具5'の頭が壁体6'より突出した状態となり外観が悪いと共に強度的にも強く壁体6'に板材1'を取付けることができなかつた。

[考案の目的]

本考案は叙述の点に鑑みてなされたものであって、本考案の目的とするところは建築用板を固着具により壁体に取付ける場合に建築用板への固着具の打ち込み角度が多少ずれたとしても打ち込み方向を指定して壁体に対して略垂直に固着具を打ち込むことができる建築用板を提供するにある。

[考案の開示]

本考案建築用板は黒糸材にて形成された板材

1の少なくとも上端部に水平方向に連続した固着部2を形成し、この固着部2の表面に固着具打ち込み場所指定用の切欠3を設け、この切欠3に対応するように固着部2の内部に固着具誘導用の空洞部4を設けたものであって、上述のように構成することにより従来例の欠点を解決したものである。つまり、上記のように構成することにより固着具5の打ち込み方向を切欠3と空洞部4とにより指定でき、また、固着具5を多少ずれた角度で板材1に打ち込んだとしても固着部2の内部に設けた空洞部4により固着具5はガイドされ壁体6に対して略垂直に打ち込むことができ、固着具5の頭が板材1の表面に斜めに突出することがなく、外観が良いものである。更に壁体6に対して略垂直に固着具5を打ち込むことができるので、強度的にも強く板材1を壁体6に取付けることができる。更に板材1の固着部2の内部に空洞部4を設けることで、板材1の製造上の材料を削減することができ、固着具5の打ち込み位置において割れや欠けが発生するのを防止することができる。

以下本考案を実施例により詳述する。

第1図乃至第2図は本考案の第1実施例を示し  
黒糸系材にて形成された板材1の上部と下部に夫  
々水平方向に連続した固着部2、2を設けてある。  
上部の固着部2の上端縁の表面側には上方向に突  
出した係止突縁2aを突設してあり、裏面側には  
壁体1へ当接するための当接部2bを形成してあ  
る。下部の固着部2は上記係止突縁2aと嵌合自  
在な形状であって、裏面側には裏面外方に向かっ  
て突出した係止凹縁2cを形成してある。係止凹  
縁2cの表面側からは下方向に向かって延出した  
延出縁2dを設けてあり、延出縁2dの垂直方向の  
中央部と先端部とには板材1の裏面側に向かって  
突条2e、2eを夫々突設してある。上部の固着部  
2の表面には固着具打ち込み場所指定用の切欠3  
を設けてあり、この切欠3に対応するように固着  
部2の内部に板材1の表裏方向に長い形状の固着  
具誘導用の空洞部4を設けてある。本考案を実施  
するにあたっては次のように行う。第2図に示す  
ように壁体6の下部に板材1を配置して上端部の

固着部 2 の切欠 3 を目印にして切欠 3 より壁体 6 に向かって釘等の固着具 5 を打ち込んで、壁体 6 に板材 1 を取付ける。そして取付けた板材 1 の上端部の固着部 2 の係止突縁 2a に別の板材 1 の下端部の固着部 2 の係止凹縁 2c を係止するようにして別の板材 1 を取付けた板材 1 の上部に配置すると共に上端部の固着部 2 の切欠 3 より固着具 5 を打ち込んで板材 1 を壁体 6 に取付ける。このようにして連続して壁体 6 に板材 1 を取付ける。上記のように固着部 2 の内部に空洞部 4 を設けることで第 3 図に示すように固着具 5 の板材 1 への打ち込み角度が他方へずれたとしても固着具 5 を壁体 6 に打ち込んでいくにつれて空洞部 4 により固着具 2 の先端は壁体 6 に対して略垂直となるようガイドされて壁体 6 に対して略垂直に固着具 5 を打ち込むことができる。更に壁体 6 に対して固着具 5 を略垂直に打ち込むことにより壁体 6 に対して強度的に強く板材 1 を取付けることができる。また固着部 2 に空洞部 4 を設けることにより板材 1 の固着具 5 の打ち込み位置での割れや欠け等の

発生を防止することができる。また上記空洞部4の上下に別の空洞部4を設けることにより板材1の製造上の材料を削減することができる。第4図乃至第5図は本考案の第2実施例であって、板材1を壁体6に鏡下見張り状に張るもので、この実施例の場合にも固着具5は壁体6に対して略垂直に打ち込むようするために空洞部4の方向は壁体6に対して略垂直となるように板材1に対してやや傾いた状態で設けてある。第6図は本考案の第3実施例を示し、平板状の板材1を壁体6に取付けたものが示されている。この板材1の上端部の固着部2の上面の裏面側からは上方向に延出した係止突縁7を上部が段状となるように延出してあり、下部の固着部2の底面の表面側からは係止突縁7と係止自在なように逆段状となつた係止突縁部8を設けてある。このように構成した場合にも上述した実施例と同様の効果が得られるものである。

[考案の効果]

本考案は叙述のように板材の少なくとも上部に

水平方向に連続した固着部を形成し、この固着部の表面に固着具打ち込み場所指定用の切欠を設け、この切欠に対応するように固着部の内部に固着具誘導用の空洞部を設けたので、固着具の打ち込み方向を切欠と空洞部とにより指定することができ、固着具を多少ずれた角度で板材に打ち込んだとしても固着部の内部に設けた空洞部によりガイドされ壁体に対して略垂直に固着具を打ち込むことができ、固着具の頭が板材の表面に斜めに突出することなく、外観が良いものである。更に壁体に対して略垂直に固着具を打ち込むことができるので、強度的にも強く板材を壁体に取付けることができる。また板材の固着部の内部に空洞部を設けることで、板材の製造上の材料を削減することができると共に固着具の打ち込み位置での板材の割れや欠けの発生を防止することができる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例の要部の拡大断面図、第2図は同上の全体断面図、第3図は同上の固着具の動作状態を示す断面図、第4図は同上の他の

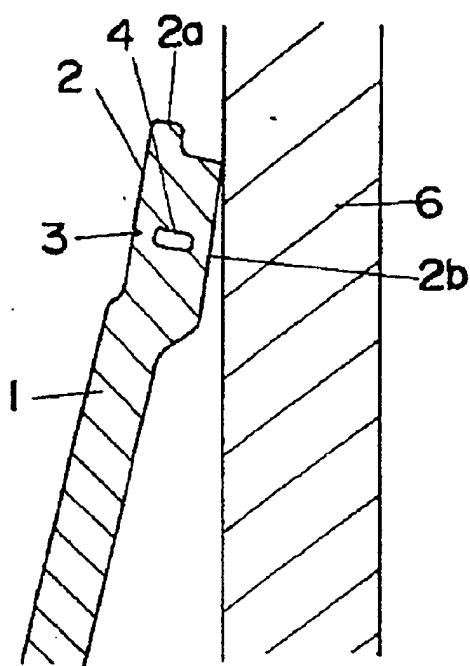
# 公開実用 昭和64- 50541

実施例の要部の断面図、第5図は同上の他の実施例の断面図、第6図は同上の更に他の実施例の断面図、第7図は従来例の断面図であって、1は板材、2は固着部、3は切欠、4は空洞部、5は固着具である。

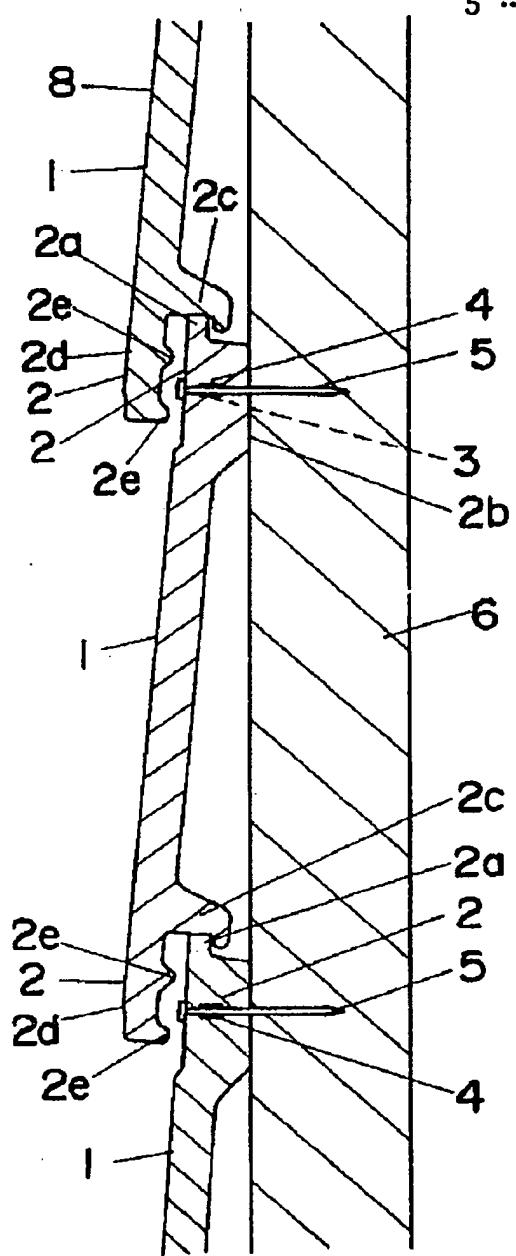
代理人 弁理士 石田長七

1 … 板材  
 2 … 固着部  
 3 … 切欠部  
 4 … 空洞部  
 5 … 固着具

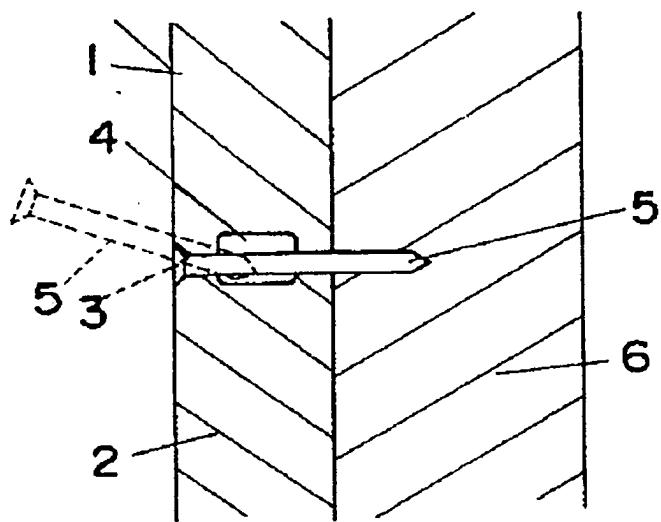
第一図



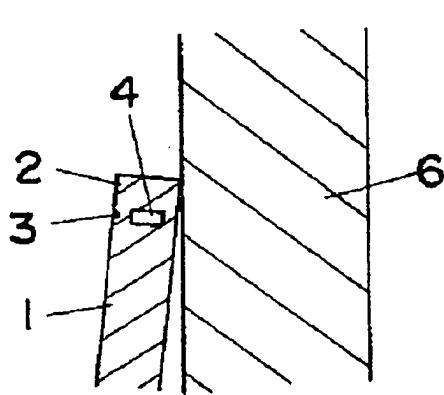
第二図



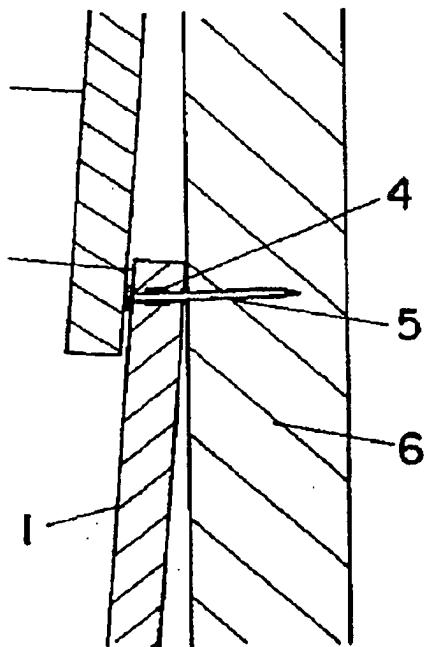
第3図



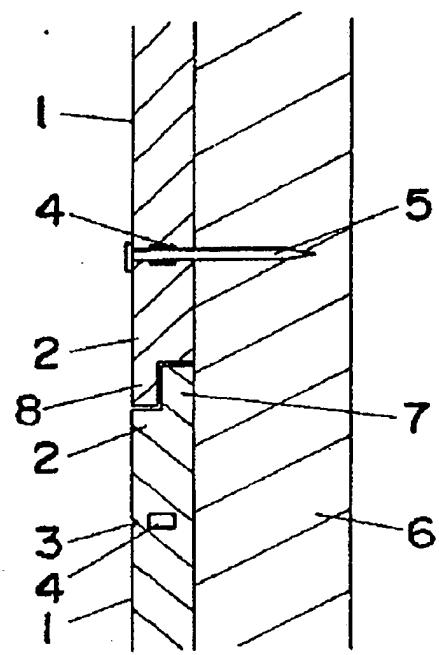
第4図



第5図



第6図



第7図

